

第86回米国アカデミー賞 短編アニメーション部門 オムニバス映画『SHORT PEACE (ショート・ピース)』より つくも 森田修平監督作品『九十九』がノミネート

バンダイビジュアル株式会社
株式会社バンダイナムコゲームス

2014年1月16日、第86回米国アカデミー賞のノミネート作品が発表され、2013年7月20日より全国公開されたオムニバス映画『SHORT PEACE』より、森田修平監督の短編アニメーション『九十九(つくも)』が、日本監督としては5年ぶりとなる、第86回米国アカデミー賞短編アニメーション部門のノミネート作品として選出されました。

『九十九』は、森田修平監督による14分の短編アニメーションです。昨年の紫綬褒章の受賞で記憶に新しい、大友克洋監督作品(『火要鎮(ひのようじん)』)を含む4編の短編映画で構成された映画『SHORT PEACE』中の1本です。18世紀の日本を舞台に、「ものに魂が宿る」というテーマのもと、モノノケと人間の男の交流を描いた作品で、日本画的な表現と3DCGを融合させた、これまでに無い斬新な映像美を表現しています。

本作は、2012年アヌシー国際アニメーション映画祭ショートフィルム部門に選出され、また第16回文化庁メディア芸術祭ではアニメーション部門の推薦作品に選定されるなど、すでに国内外で高く評価されています。

第86回米国アカデミー賞の各賞が発表となる授賞式は、3月3日(日本時間)に米国・ハリウッドにて行われます。

【『九十九』 ストーリー】

18世紀。嵐の夜、深い山中で男が道に迷っていた。そこで見つけた小さな祠。中に入るとその空間は突然別世界の部屋に変化する。そこに次々と現れたのは捨てられた傘や、着てもらえなくなった着物などのモノノケ達。男はその怨念を秘めた古い道具たちを丁寧に修理し、慰めてやる。



【森田修平監督 コメント】

『九十九』は“自分らしい作品とは何か？”と、ここ数年迷い考えた末、やっと素直に描けたと実感した作品です。日本では、この様なショート作品はなかなか陽の目を見ることが難しく、制作も困難な状況の中、こうしてノミネートされ注目を浴びることができ、一人でも多くの方に見てもらえる事を嬉しく思います。

【森田修平監督 プロフィール】

1978年生まれ、奈良県出身。合同会社「YAMATOWORKS」代表。アニメーション監督作の代表作としてOVA『KAKURENBO』(2005)、OVA『FREEDOM』(2006～2008)、OVA『コイ☆セント』(2010)がある。

●映画『SHORT PEACE』とは

『火要鎮(ひのようじん)』(大友克洋監督)、『九十九(つくも)』(森田修平監督)、『GAMBO(ガンボ)』(安藤裕章監督)、『武器よさらば』(カトキハジメ監督)の4本の、日本をテーマにした短編アニメーションからなるオムニバス形式の劇場作品で、アニメーション制作は(株)サンライズが担当しています。

映画『SHORT PEACE』のBlu-ray Disc[スペシャルエディション:9,800円(税抜)、通常版:5,800円(税抜)]&DVD[4,800円(税抜)]は、バンダイビジュアル(株)より好評発売中、さらに、PlayStation®3用ゲーム「SHORT PEACE 月極蘭子のいちばん長い日」[6,648円(税抜)]は、(株)バンダイナムコゲームスより好評発売中です。

【『SHORT PEACE』公式サイト】<http://shortpeace-movie.com/>

© SHORT PEACE COMMITTEE

© KATSUHIRO OTOMO/MASH・ROOM/SHORT PEACE COMMITTEE